

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	がっこうほうじん しながわじょしがくいん				②所在都道府県	東京都
26～30	①学校名	学校法人 品川女子学院					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	高1:209名、高2:197名、高3:194名 中1:230名、中2:220名、中3:230名 高校計600名、中学計680名	
高等部普通科	209	197	194		600		
中等部	0	0	0		0		
⑥研究開発構想名	学校と社会が連携し、「起業マインド」を持つ女性リーダーを育成する研究						
⑦研究開発の概要	自ら社会の問題を発見し、多様な人を巻き込んで問題解決に一步を踏み出す人の育成を目指し、6つの力（問題発見力・共感力・内省力・発信力・英語コミュニケーション力・英語プレゼン力）を身につけさせるために、有機的に関わる4つの課題研究を生徒に課す。いずれも学校外と連携し、生徒が主体的にチャレンジできる場を用意する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>社会を変える動機と力を持つリーダーを育成するために、必要な力を身につけさせる教育機関としての仕組みづくりを研究し、教員もチャレンジを恐れない体制をつくりたい。特にビジネスに関わる校外での活動や海外への留学に積極的に参加する生徒を多く生み出すことを目指す。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校中等部での実績から、学校外の大人モデルとの交流を増やし、ゴールを共有する協働活動を行うことが、生徒が社会と関わる動機づけに大きく資すると考える。高等部で同様の場を増やし、ゴールの質を上げ、身につけるべき力を明確にして検証方法を確立すれば、さらなる効果が期待できると考える。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>本校内で外部ゲスト・参加者・他校生徒を招いて行う各種講演会・研究会・特別講座において、学校関係者だけでなくビジネス界の方も交えて成果を共有する機会を持ち、広く情報発信していきたい。また、英語HPでの報告、出版物の形でも成果を公にする。</p>					
		⑧-2課題研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>現在の我が国には女性起業家、特に社会起業分野における起業家が少ないという課題を認識し、社会課題を自ら発見し、新しいソーシャル・ビジネスを生み出す「起業マインド」について研究し、身近な生活から科学的な調査・分析によって課題と社会的なニーズを見極め、解決するような実践のプラットフォームを作る。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>【P1】デザイン思考により「問題発見力」を身につける。 慶應 SFC 坂井直樹前教授と共同開発により総合学習の時間と情報の時間を用いて高校1年生全員が実施する。授業形態は課題説明→フィールドワーク→ディスカッション→プレゼンによる共有→評価のワークショップ形式とし、研究会学生と共同で評価会を開催する。</p> <p>【P2】リーダーシップの研究により、「共感力」「内省力」を身につけ、他者との共同作業をスムーズに行う。 日本教育大学院大学熊平美香学長の協力で、総合学習の時間を用いて高校2年生全員が実施する。身につけた方法を、下級生への指導や地域の小学生へのワークショップ開催により還元することをもって検証評価する。</p> <p>【P3】家庭科授業を中心に衣食住をはじめとする身の回りの事象を科学的に分析し、さらに海外との比較を通じて、社会的な課題を発見して解決法を探る Project Based Learning を行う。 高校2年生(全員)の家庭科の時間を中心に実施する。日本の衣食住をはじめとする身近な事象をテーマに、課題設定・調査・成果発表を各個人が行う。調査</p>				

		<p>・発表は ICT を用いて行う。オーストラリアのメルボルン・カレッジと共同で実施するため、英語プレゼンテーションも実施する。評価は、両校の教員が共同で行う。ICT の効果的な活用法については、Evernote 日本法人会長外村仁氏に助言をいただく。</p> <p>【P4】 P1～P3 の実践の場として、起業プランコンテスト等での成果発信を行う。文化祭での起業体験を、高校 1・2 年生全員がクラス単位で実施する。事前事後指導は総合学習の時間を用いる。終了後、優秀プランは一般財団法人ソーシャル・ビジネス・プラットフォームのアイデアプレゼン大会を始め、各種大会に応募・発表する。プログラム全体の運営は、東京大学・慶應義塾大学鈴木寛教授の監修を受ける。また、ソーシャル・ビジネス・プラットフォームでは、代表理事田口義隆セイノー・ホールディングス代表取締役をはじめ、経営者の方々の評価を受ける。応募のためのプラン作成は、高校 3 年 1 学期の総合学習の時間まで継続する。P1～P3 で身につけたことを実践する場ともなる。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 なし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 研究テーマを各生徒が深めるための基礎的な力として、英語力の向上にも力を注ぐ。具体的には、英語で行われる授業の比率の増加・留学生徒サポートを行う。早稲田大学商学大学院神保尚武教授、島岡丘筑波大学名誉教授に助言をいただいて進める。それぞれ、授業実数・点数向上・留学生増加の実数をもって検証評価する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 なし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <p>①グローバル・リーダー育成に関する特別講座実施 本校校長がグローバル・ビジネス界のリーダー（元 UBS グローバル・アセット日本社長 岡村進氏、特定非営利活動法人ジェン(JEN) 理事・事務局長 木山啓子氏ほか）を招いて、生徒・保護者・ビジネス関係者を対象としたワークショップを開催する。</p> <p>②ICT 利用環境の整備 タブレット端末を 1 学年生徒分リースし、一人一台体制を整える。それにより、現状で全生徒に与えている GoogleApps のアカウントを日常的に使用できる状態にし、スケジュールやファイルの共有・SNS の利用によりコミュニケーション機会の増大とスピードアップを図る。</p> <p>③留学生を交えた授業を実施 各クラス 2 名(計 10 名)の枠がある高校 1 年に受け入れている留学生を交えた授業を、英語・国語の時間に実施する。比較文化のプレゼンテーションを題材とする。</p> <p>(4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入） なし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>なし</p>

ふりがな	がっこうほうじん しながわじょしがくいん	指定期間	26～30
学校名	学校法人 品川女子学院		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）									
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	150 人
	SGH対象生徒以外:	30 人	30 人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 高校生のための次世代起業家サミットなど校外の公益性の高い共同作業に参加する生徒の数									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	35 人
	SGH対象生徒以外:	15 人	15 人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 姉妹校を含む海外校への留学・研修の機会を提供・紹介し、応募してきた生徒の数									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:	20%	20%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 卒業時の意識調査で国際化に重点を置く大学進学数やグローバル企業への就職志望者数の割合									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	75 人
	SGH対象生徒以外:	0 人	5 人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: ソーシャル・ビジネス・プラットフォーム(本校が会場)や、各種コンテストへの参加者・入賞者ののべ参加数									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	8%
	SGH対象生徒以外:	0%	0%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: CEFRのB1～B2レベル(英検2級～準1級・TOEFL57点程度以上)に達した生徒数									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	60%
	SGH対象生徒以外:		25%	25%	%	%	%	%
目標設定の考え方: その年度の卒業生に対して文部科学省が支援する国際化に重点を置く大学へ進学した生徒の割合								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:		1人	2人	人	人	人	人
目標設定の考え方: その年度の卒業生で海外大学へ進学した生徒数								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 卒業時の意識調査で、研究目的にある6つの力が専攻分野に影響を受けたと回答した生徒の割合								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	70人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: 卒業後の追跡調査を行い、留学又は海外研修を行った卒業生数								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 海外で行われる、課題研究に関連するの研修等への参加者数								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	0人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: 国内で行われる、課題研究に関連するの研修等への参加者数								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	2校	2校	人	人	人	人	人	4校
目標設定の考え方: 姉妹校に加え、コルベ・カレッジ等、新たな連携先を探す								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	0人	5人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 提携先大学より教員の派遣および学生TAとの共同授業を開催する								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	2人	2人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 起業体験プログラム事前・事後指導と、課外の特別講座を合わせ、目標を達成する								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	5人	人	人	人	人	人	600人
目標設定の考え方: ソーシャル・ビジネス・プラットフォームの大会に全生徒(600人)にビジネスプランを提出させる								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	4人	4人	人	人	人	人	人	10人
目標設定の考え方: これまで、高校1年に10名(各クラス2名)を上限に受け入れてきた。これを継続する。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	1回	人	人	人	人	人	10回
目標設定の考え方: 校内で研究会を開催。また、校長の講演や出版も含め、情報発信を行う。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	△						○
目標設定の考え方: 既に担当者おり、25年度中の整備完了を目指している。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)(高等部)	600	602	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							